

## 「令和4年12月 西区教育ミーティング」における主な意見への回答

出席者33名(自治協委員26名、中学校PTA関係7名)  
アンケート回収22名

1 特別支援教育関係		
	感想・意見	回答
1	<p>・「障がい者を特別視しない」とのことですが、「特別支援」とは別の呼び方があれば良いなと思いました。</p> <p>「特別」が気になりました。全国的なもので仕方ないことなのかもしれませんが、みんなが平等に公平にチャンスをつかんで成長できる学校であってほしい。</p>	<p>特別支援は英語の「スペシャルエデュケーション」を訳したもので、「特別な支援」を行う教育という意味で、障がい者を特別視するものではありません。</p>
2	<p>・地域に多分民間の事業者が運営されている放課後の施設がオープン。地域の声かけを必要とされているがハッキリどういう施設なのか地元の人も知らない。</p> <p>大掛かりな告知も必要ないと思われるが、知っていれば安心でき、地域で見守ることができるかと……</p>	<p>障がいのあるお子さんの放課後の居場所として運営されている放課後デイサービスなどの施設でしょうか？所管する障がい福祉課に情報を伝えます。</p>
3	<p>・特別支援の入り口、子ども自身も大変であり、同時に障がいのことがわからない時期の親御さんフォローがまずは大事です。</p> <p>その上でこの先どんな道があるのか、どんな学校、園、施設が適切で、何がちょうどよいか分からないからストレスやプレッシャーは相当なものです。</p> <p>そこでチャート図のように、入園から就職後の生活までどんな方向があるのか、できれば施設名や医療担当者が分かるような形で明示してほしいと思います。</p> <p>知的なら…、こんなことが起る…、相談は…、指導先は…というように。お願いします。</p>	<p>障がいのあるお子さんの様相は様々で、障がい名が同じでも、全く違った様相を見せることもよくあります。特別支援教育課内に「特別支援教育サポートセンター」があり、学齢期前の親御さんからの相談にもワンストップで応じています。障がいの程度などに応じて、相談先、指導先等を紹介しています。</p>
4	<p>・子供が支援級に在席しているので勉強になると思ってきました。</p> <p>ざっくりしていて保護者としては質問したくても時間がないのが残念でした。</p> <p>支援教育の地域差はとても実感しています。</p> <p>学校、区、保護者が信頼関係ができ、連携できればいいなと思います。</p>	<p>特別支援学級担任のうち、特別支援学級担任の経験が3年以下の教員が、約50%います。研修で少しでも底上げを図りたいと思います。</p>

	感想・意見	回答
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育はお金がかかる。財政面の支援を！</li> <li>・教員は十分に採用できるのか。</li> </ul>	特別支援教育の教員養成には大学と連携して、様々な手立てをしていますが、まだ十分とはいえません。
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の支援計画、その児童に合わせて…と説明いただきました。私は学校現場にいるのでその大変さを目にしています。</li> <li>支援員不足、コミュニケーションの時間確保など改善されると良いと思います。</li> <li>児童に対しての情報は共有して、多くの目で見られるような現場であると良いと思います</li> </ul>	個別の教育支援計画作成の研修や、アプリの導入などで、質の向上を図っていきます。
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他校の支援学級の取り組み状況の情報共有を要望する。</li> <li>・支援学級の児童、生徒を可能な限り普通学級に課目ごとに入替えすることで、学習に対する志気が生まれると思う。</li> </ul>	特別支援教育コーディネーター研修を実施して、各校の情報を交換しています。児童生徒の実態に合わせて、通常学級で学ぶ「交流学习」は全ての学校で実施されています。
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援の中で、今増加されているとされる「軽度発達障がい」を持つ子どもたちへのサポート、ケア、対応が急がれると思いますが、どのように考えているのか教えていただきたい。</li> </ul>	発達障がいへの理解は広まっていますが、誤解や、偏見も残っています。また、浅い理解で発達障がいと決めつけてしまい、適切な支援に結び付かないケースもあります。研修を充実させるとともに、相談体制を充実させます。
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援の教育を受けた教員の配置、採用は必要。推し進めて欲しい。</li> <li>・ハード面の整備は進んでいるのか。</li> <li>身体的支援、医療的支援が必要な児童生徒が希んだ学習を積める環境は実現できるのか。</li> </ul>	新潟大学と連携し、特別支援教育の知識をもった学生の採用を進めていますが、成果は不十分です。ハード面の整備は、車椅子を利用する児童が進学する予定の中学校にエレベーターを設置するなど、計画的に進めています。

2 部活動の段階的な地域移行関係		
	感想・意見	回答
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の地域移行については地域ニーズ・実情を具体的に丁寧に拾い上げて、市独自の精度展開と取り組みをお願いしたい。</li> <li>→全県体(他市町村)、県教委、保体課のとり組みと足並みをそろえて連携強化をお願いしたい。</li> <li>「ガバナンス」と「広域連携」の強化を前提としてお願いします。</li> </ul>	これまでに、各種目や芸術文化活動の協会や連盟との連携、令和5年度事業予算の見通し、指導者や運営主体への研修等について、県教育委員会保健体育課とも情報交換を行っています。引き続き、情報の共有を図りながら推進してまいります。

	感想・意見	回答
11	・部活動の地域移行に関しては、子供が選べる範囲が増えるのはありがたいとは思いますが、送迎、場所、地域差が大きく、子供にがまんさせることがあるのではと心配があります。	活動場所を決めて、実施するための人数を集めるに当たり、種目や活動、また地域(区)によって状況が異なります。送迎を例にすると、参加する生徒の保護者どうしで持ち回りで行ったり、実施会場をローテーションする等の平等感のある方法を運営主体と検討したりすることが想定されます。
12	・部活動は本当に必要なのか疑問がある。遊びの延長でないか、行政がリードしなければならないのか。	部活動については、学習指導要領総則にある通り、生徒同士や教員と生徒等の人間関係の構築を図ったり、自己肯定感を高めたりするなど、高い教育的意義があります。 これまで、上記の理念の下で教師が部活動の指導に当たってきましたが、今後、休日の部活動に関してはチームや団体として移行するケースを想定し、学校も受け入れ先を検討しています。これからは持続可能で多様なスポーツ・文化芸術活動を目指し、行政や民間等、市民が一体となって制度や環境を整えていく必要があると考えています。

3 その他		
	感想・意見	回答
13	・質疑に十分な時間がなく残念	次回開催の際は、十分な質疑の時間が取れるよう再考いたします。